

公明こうち

市議会ニュース

発行所／高知市議会公明党
住 所／〒780-0870
高知市本町5丁目1番45号
TEL:088-823-9403
FAX:088-871-2485

2011年(平成23年)2月1日 第15号

高知市議会  公明党

第424回

高知市議会定例会

公明議員3氏が、専門性を發揮した質問戦を展開！



寺内 うち ゆうじ 憲資 議員



西森 にしき もり 美和 議員



高木 たかぎ なえ 妙 議員

寺内憲資議員は、岡崎市長と尾崎知事が将来に夢ある事業として、市民・県民の前で語っている四国沖に眠る「メタハイドレート」の開発について、高知新港の活用面から次のとおり質問を行いました。

四国沖に眠る「メタハイドレート」は、高知港に寄港した世界最大級の探査船「ちきゅう」によって、その存在が確認されており、政府の「海底資源エネルギー確保戦略」でも2020年の事業化が示されたところです。

南海トラフの「メタハイドレート」は、全体で日本の天然ガス年間消費量の90年分くらいあると言われています。

「メタハイドレート」の開発は国家プロジェクトであり、大規模な作業船が必要となります。

その時に、船舶基地・開発基地として最も近い位置にあるのが高知新港であります。

高知大学の南国キヤンバス内には、ニア研究のための世界最先端設備を備えた、高知大学海洋コア整合研究センターが設置され、探査船「ちきゅう」が採取したコアが持ち込まれてます。

「メタハイドレート」の開発基地にするための、高知新港の整備を早急に行い完成させるべきであると訴え、高知港を「メタハイドレート」の開発基地にできることや、市長が事前に積極的に取組んで頂くことを強く要望しました。

市長からは「メタハイドレートの大半が土佐沖に眠っていることから、探査船の基地・陸上からの支援基地を目指していく」と旨の積極的な答弁がありました。

寺内憲資議員は、岡崎市長と尾崎知事が将来に夢ある事業として、市民・県民の前で語っている四国沖に眠る「メタハイドレート」の開発について、高知新港の活用面から次のとおり質問を行いました。

四国沖に眠る「メタハイドレート」は、高知港に寄港した世界最大級の探査船「ちきゅう」によって、その存在が確認されており、政府の「海底資源エネルギー確保戦略」でも2020年の事業化が示されたところです。

南海トラフの「メタハイドレート」は、全体で日本の天然ガス年間消費量の90年分くらいあると言われています。

「メタハイドレート」の開発は国家プロジェクトであり、大規模な作業船が必要となります。

その時に、船舶基地・開発基地として最も近い位置にあるのが高知新港であります。

高知大学の南国キヤンバス内には、ニア研究のための世界最先端設備を備えた、高知大学海洋コア整合研究センターが設置され、探査船「ちきゅう」が採取したコアが持ち込まれてます。

「メタハイドレート」の開発基地にするための、高知新港の整備を早急に行い完成させるべきであると訴え、高知港を「メタハイドレート」の開発基地にできることや、市長が事前に積極的に取組んで頂くことを強く要望しました。

西森美和議員は、健康政策・農林水産行政・教育行政について、一問答方式で質問をしました。

◆子宮頸がん予防ワクチンの無料接種

これまで県の補助があつても対象者が多い本市が実施できない事例もあり、無料接種の拡充を強く求めたことに對して、市長からできる限り多くの方にワクチンをうけて頂くとの前向きな答弁を得ました。

詳しく述べ、「二月号の『あかるいまら』に掲載されましたのでご覧下さい。

◆有害鳥獣对策策

中山間地域をはじめ全市域的に農作物への被害が深刻であった有害鳥獣の対策について、市民相談や現地での調査をふまえて質問を行いました。

なかでもいわゆる「害鳥」については例年160頭前後で、また捕獲数が本年度はすでに338頭であり、総合的な対策の必要性を強く訴えました。

西森美和議員は、健康政策・農林水産行政・教育行政について、一問答方式で質問をしました。

◆子宮頸がん予防ワクチンの無料接種

これまで県の補助があつても対象者が多い本市が実施できない事例もあり、無料接種の拡充を強く求めたことに對して、市長からできる限り多くの方にワクチンをうけて頂くとの前向きな答弁を得ました。

詳しく述べ、「二月号の『あかるいまら』に掲載されましたのでご覧下さい。

◆有害鳥獣对策策

中山間地域をはじめ全市域的に農作物への被害が深刻であった有害鳥獣の対策について、市民相談や現地での調査をふまえて質問を行いました。

なかでもいわゆる「害鳥」については例年160頭前後で、また捕獲数が本年度はすでに338頭であり、総合的な対策の必要性を強く訴えました。

高木妙議員は、前9月議会において、市民図書館の分館機能を担い地域の防災拠点となる下知市民図書館の改築について、「地域活性化公共投資基金」を活用して改築を行よい、提案をしました。

その結果、今議会では設計費算定額三百六百万円が計上され、岡崎市長の提案理由説明でも、「平成23年度中には工事着手を行なう、平成24年度内の完成を目指す」との具体的なスケジュールが明確に示されました。

また、工事期間中の仮設開館についても、利用者に不便をかけないように、できるだけ現在の場所に近い所に仮設開館を設置したいとの考え方が示され、下知市市民図書館の改築が大きく前進することになりました。

また、県市一体型の図書館構想について、すべての検討委員会を傍聴し、ランガナタの図書館学の5法則から図書館のあるべき姿や、検討委員会のあり方について22項目に亘る質問を行いました。

その結果、検討委員会は、全体を調整する調整会議を立ち上げる事に加えて、検討委員会の公平な設置について改善する事が示され、土地利用では、西側の空白の土地利用検討委員会を立ち上げること、街路市開闢時の諸問題について、要望を十分に汲み取る最大限配慮していく事が明らかになりました。

最後に、動物愛護政策についての質問では、市長から「現行の三千円（頭あたり）は県内町村と比較して低い」との認識が示され、「引き上げが必要」との明確な答弁がありました。今後、平成23年度の当初予算に盛り込まれる予定です。

特に、農業委員会の建議書等でも要望の強い「捕獲報奨金」の引き上げについて、周辺自治体との格差を指摘し、「早急な増額を求める」ところ、長野市長から「現行の三千円（頭あたり）は県内町村と比較して低い」との認識が示され、「引き上げが必要」との明確な答弁がありました。今後、平成23年度の当初予算に盛り込まれる予定です。

最後に、動物愛護政策についての質問では、市長から「現行の三千円（頭あたり）は県内町村と比較して低い」との認識が示され、「引き上げが必要」との明確な答弁がありました。今後、平成23年度の当初予算に盛り込まれる予定です。

予算要望



公明党高知市議団は、昨年11月26日に平成23年度の当初予算編成に関する要望書を岡崎誠也市長に申し入れを行いました。

その内容につきましては厳しい経済、雇用状況の中で生活者重視の立場から「活力みなぎる・しあわせ都市」を目指し、11分野220項目からなっております。

内容は、財政健全化に向けての取組みをはじめ、子宮類がん予防ワクチン接種の公費助成などの健常対策、雇用の拡大及び地産地消や企業誘致での経済対策など、市民の皆様から頂いたご意見・ご要望を幅広く反映したものであります。

今後とも、要望実現のために全力で取組んでまいります。

高知市議会公明党で、市民図書館分館などを視察

平成22年11月25日(木)、高知市議会公明党は、市民図書館分館の現状や課題、県市合築で検討がされている新図書館の機能と在り方などを調査研究のため視察しました。

先ず、江ノ口・下知・長浜・春野市民図書館を午前中に視察。午後から、子ども科学図書館・潮江・旭市民図書館と高知市民図書館本館、最後に点字図書館を訪問しました。

今回の視察において、各施設の職員の方々が、利用者へのサービスと地域の特色を生かすなど、創意工夫をされていることを改めて認識し、司書配置や予算配分の必要性など大変勉強になりました。

そして、今後の市民図書館の本館と分館、図書館の分室も含めた検討も重要な課題であると認識しました。また、子ども科学図書館と点字図書館においても今後十分な協議が必要であります。

私たち高知市議会公明党は、現在協議がすすめられている3つの基本構想検討委員会の協議内容に注視し、市民の皆様の御意見も聴取しながら、これから図書館のあり方と市民ニーズに応えられる、機能やサービスが確保されるように努めてまいります。



県市図書館合築について、基本構想検討委員会の協議が始まる

県立図書館と高知市民図書館の一体的整備については、両館がともに施設の老朽化や狭隘化が著しく、建て替え等が長年にわたって議論になりながら、財政問題で先延ばしの棚上げになって、「図書館の用地確保の目処も進んでいませんでした。

そうした最中、平成22年8月24日、高知県知事と高知市長や県市の執行部が、共通する行政課題を協議する県市連絡会議が開かれ、市長が「合築で整備する方が利用者の利便性が高い」「追手前小跡地での合築を県と協議している」と議会等に説明している」と述べたのに対して、知事が「大いに賛同する。箱物にかかる経費を削減できる。運営経費も重複部分を整理し、県市の機能の充実、強化に向けられる」と応じました。このことにより、県市図書館合築について、「新図書館、子ども科学図書館・こども科学館、新点字図書館」の3つの基本構想検討委員会の設置がなされ、昨年10月から協議がおこなわれています。



かつてない難しさ、長引く不況が続く中、最も大切な人間関係の希薄化が頭著になつづつある現在、地方行政には、その処方箋が求められており、こうした切实な住民福祉の向上に貢献できる、よりの議員に課せられた永遠の至上命題です。

私たち市議会公明党は常にこの課題に悩み、間断なく議会改革の先頭に立って挑戦してきました。この実績を掲げ、決意も新たに勇んで住民の中に飛び込み真摯に訴える勝利することを誓います。(桃)

太陽